

《特集》 夏 山 登 山

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山口 博

山名	八ガ岳		山行名	例会		
ルート	8/4 美濃戸口—美濃戸山荘—行者小屋—（地蔵尾根）—赤岳展望荘 8/5 赤岳展望荘—赤岳—赤岳展望荘—三叉峰—横岳—硫黄岳—夏沢ヒュッテ 8/6 夏沢ヒュッテ—箕冠山—東天狗—黒百合ヒュッテ—渋の湯温泉					
山行日	8月4日～6日		天候	曇り小雨		
参加者	リーダー：山口 サブリーダー：秋月 男性：11名 石田 金本 倉光 坪田 樋口 峯岡 守口 山下 遊佐 女性：4名 秋山 上田 樺山 倉光 合計：15名					
 <p>硫黄岳周辺で見つけた 紅白のコマクサ</p>	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	8/4 新田辺 美濃戸口	発	5:50	三叉峰 横岳	着	10:35
		着	10:30		着	11:00
	美濃戸山荘 行者小屋	着	12:00	硫黄岳 夏沢ヒュッテ	着	13:10
		着	14:50		着	14:20
	赤岳展望荘 (宿泊)	着	16:55	5/6 夏沢ヒュッテ 東天狗	発	5:40
					着	7:25
	8/5 赤岳展望荘 赤岳山頂	発	5:30	黒百合ヒュッテ 渋の湯温泉	着	10:00
		着	6:15		着	12:00
赤岳展望荘 "	着	7:00	" 新田辺	発	13:00	
	発	9:50		着	22:20	

山行報告

大型バスで新田辺を5時50分に出発し途中の富士見高原でB班を降ろし、予定よりも30分早く10時30分に美濃戸口に着きました。今日の行程を考えるとこの時間の到着は有難い。美濃戸山荘まで大型バスが入らないので6時間の行程で小屋到着が余裕を見て5時予定だ。行者小屋までは緩やかな登りですが曇っていて涼しくトレーニング登山と比べて快適だ！やがて前方に横岳が姿を現し、これから登る稜線も見える。3時間で行者小屋に到着しました。これからのきつい登りを考えるとゆっくりも出来ず早々と出発する。ここから地蔵の頭までは急登ですが岩を掴みながらの登りはゆっくりで返って疲れない。やがて赤岳展望荘が眼前に見え45度の急傾斜は鉄梯子が続きやがて地蔵頭に着きました。途中でYさんの足がツリ暫くマッサージして直ぐに回復し歩き出して呉れてホッとしました。小屋には予定の5分前に無事到着しました。

夕食はホテル並みのバイキングで腹いっぱいで大満足！山小屋も随分良くなったものだ。展望荘は風呂も有り山で汗が流せるのも有難い、風呂に入り8時過ぎに就寝。

8/5

5時から朝食を済ませて5時30分に出発しました。阿弥陀岳まではピストンですので軽装で出発し、赤岳山頂には6時15分に着きました。山頂はガスが掛かって全く眺望が無く残念でした。天気が悪いので阿弥陀岳の登頂を諦めて赤岳展望荘に戻りました。小雨が振り出し、今日の宿泊地夏沢ヒュッテまではこれからは3時間半の行程で急ぐ事もないので展望荘で休憩して、雨も止んだので9時50分に出発しました。昨日下から眺めていた縦走路を中山峠まで尾根歩きです。痩せ尾根や岩場の縦走路をアップダウンして横岳には11時に到着しました。相変わらず展望が有りませんが下界では考えられない爽やかさで、此处で50分間のお昼休みにしました。

横岳から硫黄岳へは急な下りやら岩場のトラバースなど面白い縦走路です。

硫黄岳周辺はコマクサの群生地ですが、2001年の例会で来たときには無かった金網が張られ残念、カメラも網の隙間からの撮影です。それでも白色のコマクサに再会出来て、12年前の山行を思い出しました。夏沢ヒュッテには2時20分に着きました。昨日はしんどい登りでしたが今日のはのんびりと稜線や岩場歩きを楽しみました。

BコースのA班が5時前に着きましたがB班が遅れて6時前に着き全員が揃って安心しました。

今日の小屋は他に泊まり客が無く私達だけの貸し切で、今日の食事バイキングです。

山小屋も随分良くなりました。夜具もシュラフが多くなった様です。小屋も片付けや蒲団干し等の手間が無くなり楽になりますね。

8/6

5時からバイキングの食事を済ませて5時40分に出発しました。

箕冠山・根石岳・東天狗とアップダウンですが歩き易い。東天狗を下ると此処からは岩石の道が続き濡れた石は足元に気を使います。

黒百合ヒュッテには予定の時間より遅れて10時に着きました。歩き難い道で15名のパーティで時間が掛かりました。先の植西班は30分前に着いてコーヒータイトで余裕です。CLが10分休憩すると話すと、コーヒードrinkたいと何人かが靴を脱いで入りました。10分の休憩時間ではとてもコーヒードrinkは無理で、下山時間を考えると私達にはそんな余裕が有りませんので中止して出発しました。

これからの石道が延々と続きます、10分遅れて渋の湯温泉に1時に着きました。

温泉で汗を流して3日間の疲れが取れました。3時に出発して「おぎのや」で遅い昼食を取り3時に出発しました。高速中央道で事故渋滞に巻き込まれて2時間のロスで一般道に降り再度高速に乗って多賀SAには8時30分に着き、夕食を済ませて新田辺には10時20分に帰ってきました。

全員無事に3日間の山行を終える事が出来ました。

先頭を歩いて頂いたCLに秋月さん、会計の大谷さん樺山さん岡本さん、参加の皆さんご協力有り難う御座いました。

ひやりハット 足を踏み外して転落 1m位で怪我なし



「やっと晴れ間が出た 東天狗岳で」

感想文

八ヶ岳縦走

‘13.08.04-06 秋月 康敏

2013 年夏山集中登山の行き先は八ヶ岳に決まった。この山は行きたい山のひとつだが、何となく機会を失っていた。今年の夏山登山で機会が廻ってきた。説明会があり、上級・中級・初級コースのどれを選択するか少し迷ったが、守口さんの提案で「金～日曜日」から「日～火曜日」に日程変更できたので中級コースに参加することにした。一方では自分の体力と相談して、メンバーに迷惑をかける事のないコース選定ということもあった。

振り返ってみれば、‘09 年 7 月 20 日家内と「二人山旅：蓼科山」へ行った時、取り付きは蓼科山登山口からで南八ヶ岳の展望がよいコースだった。登り始めて 1 時間ほど経過した辺りで展望が開けた。のこぎりの山が見え、「あれが八ヶ岳だ、近いうちに挑戦しよう・・・」と言っていたことを思い出した。あの時は「蓼科山は大したこと無いから個人山行：二人山旅で行く」と言ったら、「登山靴は履かなくてもいいのかな」と聞くので、「やはり日本百名山だから礼儀をつくさんといかん。登山靴、ザック、雨具など全ての準備・対応をしないと山に失礼にあたる、いつでも万一のことに対応していないとダメだ」として、蓼科山に挑戦したものだ。その時に横目で見ていた八ヶ岳だから、今回「一緒に行くか・・・」と誘ったが「もう山はいい・・・、行かない・・・、迷惑かける」というので、私だけの参加にした。

富士見平コースの仲間と別れて、私たち 15 名は美濃戸口に予定通り到着・出発できた。出発前に山口 CL から「秋月さん先頭を歩いてください」との指示が出た。トレーニング登山でも前から 2～3 番目の位置で「早い・・・、時間だ、休憩を取ろう・・・、まだ 1 分は休める・・・」など、偉そうに云っていたのに先頭歩き？と驚いたが、メンバーの顔を見ると「しっかりやれよ！」というような顔付に見えたので、了解！とばかりに歩き始めた。いつもは「立ち上がり 30 分はゆっくり歩かんとあかん！マラソンでも駅伝でもそれが鉄則なんだ」と言ってるが、気がつくとか



なり早かったようだ。気を引き締めて 30 分毎の休憩はきっちり！急登は 20 分毎に抑えろとメンバーからのサゼッションもあって、クサリ・ハシゴの連続箇所も無事過ぎて地蔵の頭が見えた。その時ガスの切れ目になって今夜の山小屋「赤岳展望荘」が見えた。今までガスで景色が殆ど見えなかったが、赤岳、中岳、阿弥陀岳と一望できた。どちらかと言うと苦しいことのみ多かった急登の連続が、このすばらしい景色によって満足感に置き換わった瞬間であった。7 時間 30 分の歩行で、山口 CL の采配は見事で感心することばかり！勉強になりました。

秋山 正子

初めての本格的な山登り、八ヶ岳。バスで登山口まで連れて行っていただけるなんてほんとに幸せです。しかし、初日からの雨模様、とガス。視界が悪く、美しいだろう山並みも見れず、写真も取れず。初日、美濃戸口から行者小屋を経て一日目の赤岳展望荘の行程はきつかったです。おそらく高山病だったのでしょう。行者小屋をすぎて展望荘にたどり着く 1 時間 30 分前あたりから、めまいがし

てあしもとがおぼつかなくなりました。あげく、道から落ちてしまい、後の方に引き上げていただきました。それからますますめまいがひどくなり、三点確保ならぬ、四点確保状態で、必死に登りました。初めての経験です。二泊三日の山行は今までで一番きついものでしたが、達成感も格別です。あの有名な八ヶ岳に登れたのですから。次回の山行が楽しみです。
今回の登山、準備していただいた皆様やお世話いただいた方々にお礼申し上げます。



夏山（八ヶ岳）感想文

金本 好彰

今回は、赤岳から夏沢ヒュッテまでの八ヶ岳縦走に参加した。

以前に家族で黒百合ヒュッテ、本澤温泉、赤岳鉱泉、縞枯れ山荘、など北八ヶ岳に行ったことがある。また、大昔の労山初級登山学校で積雪期に赤岳鉱泉の付近でピーコンを使った訓練や滑落防止の訓練に参加した。今回の南八ヶ岳は初めてで期待していた。

我々のパーティーは地蔵尾根から展望層を目指した。このコースは梯子が多く急坂である。私は、

3か月ほど前から左のアキレス腱が痛く、けつまずいたら飛び上るほど痛い。先頭のAさんがゆっくり行ってくれるので助かる。1時間少しで縦走コースの登山道に出た。少し行ったところが赤岳展望荘である。

展望荘は主やスタッフがあっさりしていてとつきやすい。寝床も余裕がある。食事はバイキングで食べ放題である。いつでもコーヒーが飲める。私は、食事前に仲間から少しお酒を飲ましてもらったが、食事時に缶ビールを2本飲んだ。

翌日の登山日は、小雨とガスで展望がない。登ってみて展望が悪いときは阿弥陀岳に寄らないで、とにかく赤岳に登ることになった。赤岳は滑らかな岩場で、とっかかりの持つ岩がなくて困った。

赤岳山頂はガスで視界がない。いやらしい岩場をすぐに下山した。展望荘の談話室で1時間ほど時間をつぶしたが、天気は回復せず。我がパーティーは縦走路を下山した。途中で横岳の鎖場を難なく通過、事前に聞いていたほどの危険はなかった。小屋の主によると、花の最盛期が過ぎているが、コマクサの群生地を見た。硫黄岳は天気が悪いと道間違いの起こる広い大地のところなので、標識を確認して進んだ。夏沢ヒュッテに2時ごろ到着した。

今日はガスと小雨で展望がなし。本日の泊り客は、我が山友会のみ30人ぐらいである。ヒュッテの主は愛想が悪く狭い部屋に閉じ込められた。後のパーティーは2班に分かれて到着した。遅い人は14時間ぐらい歩いたようで大変だったようです。

下りは各班ごとに天狗岳に登り、黒百合ヒュッテ(コーヒーが飲めなくて残念)によって下山した。

今回の夏山で気づいたことは、①パーティーは分裂して連絡できないようになってはいけない。②斥候は道間違いのないように事前に知識を得て、現地の地形・登山地図・方向を見極めて行動すること。 と思い、次回の山行で役立てたいと思います。

CLの山口さん、秋月さんありがとうございました。

復活の夏：5年ぶりの夏山、初心に帰った八ヶ岳

倉光 正己

■長い休暇：イヤハヤ、本当に久しぶりの夏山だった。自分でも記憶が怪しくなっていたので、記憶確認のため、山友会「30周年記念誌」を紐解いてみた。一番後ろのあたりに白波瀬さんの労作「こんな山に登りました」という表があって、山友会の10年間の例会がすべて記されている。ことの始まりが2008年であったことは記憶にある。表によればこの年の夏山は「木曾駒ヶ岳集中登山」。私は駒ヶ岳から空木までの縦走に参加した。どうやら、これが私の夏山の最後だったらしい。ついでにこの表を眺めているうちに、いろいろ思い出してきた。この頃の私は脂が乗りきっていたようだ???



泊りがけの山行だけでも、三瓶山・石見銀山、鯖街道、3回に渡る大峰奥駆道のうち2回、夏山、飯豊山縦走、裏剣・仙人池、と続く。しかも、会長職を仰せつかっていて、30周年記念行事の準備で大わらわだったのだ！

最後の仙人池が問題だった。山小屋の階段で女房殿が滑落。脊椎圧迫骨折。山小屋から富山の病院の屋上までヘリで運ばれるという大事故？だった。この事故がきっかけとなって、女房殿が中国へ2年間でかけた。私も数か月ずつ3度の居候に出かけて、いずれも時期が夏にかかり、夏山を欠席した。去年は私の兄が亡くなって、結局、4年間、夏山の「長欠爺」ということになってしまった

たのだった。

■八ヶ岳：今年の夏山の計画を「かんなび」で見、「これは頑張って参加せねば…」と思った。もう10数年の昔、八ヶ岳が企画されたが、私はなぜか欠席し女房殿だけ参加した。帰ってきて曰く、「いいところだからこんど連れて行ってあげる」と。でも、もちろん実現せず、夢として残った。これはいったいいつのことだったのか？ ついでにこれも調べてみた。2000年7月下旬、南八ヶ岳と北八ヶ岳とある。どうやら、これがこの年の夏山だったようだ。山友会に入会して1年ちょっと。この年月日を見て、私の参加できなかった理由がはっきりしてきた。この年の4月、人間ドックで初期の胃癌が見つかり、切腹手術をしたのだった！ まだ力不足の上に、切腹後3月。無理だ！ 女房殿には気を使って参加を勧めたのだろう。そのあとせつせと回復に努め、11月の屋久島宮之浦岳で本格的復帰を果たしたことを思い出した。そういう因縁の山である。頑張らなくっちゃー…。

■訓練登山と予習：本番4週間前に六甲山に参加した。昔、比良の訓練登山で大汗をかいてへたばり気味だったこと、本番よりシンドかったことなどを思い出し、覚悟を固めた。案の定、2.5Lも水を飲み、大汗をかき、シンドイ山行だった。あと2~300mも高度があれば、確実に「足釣り」をやっていたに違いない。でも、これは昔からの恒例。ここをクリアできれば何とかなる…。2週間前には御在所に参加。ここも何度か来ている。登りさえすれば何とかなる、と思っていた。なんとか登れてヤレヤレと思っていたら、初めての下りコース・国見尾根なるところが大変！ 想定外のシンドさの下りだった。ともかく2度の訓練登山で佐坂山行部長殿から一応合格点を貰ったが、まだいささか不安…。入会当初の頃、山行前に感じていた不安感、緊張感を久しぶりに思い出した。本棚に「八ヶ岳を歩く」という本があった。どうやら、前記の女房殿の発言を受けて、個人山行でもするつもりで買ったらしい。それで予習してみると（これも緊張感のなせる業か）、岩稜で急登のなかなか手強い（「足強い」か？）山のような。これはタイヘンだ、もう一度くらいどこかに自主訓練に行かなくては…と思ったが、時間なし。7日前と2日前の、猛スピードでぶっ飛ばす甘南備スパルタ登山で代替となった。

希望コースはもちろん短い方のコース（A班）。5年前なら無条件で長いコース（B班）に手を挙げただろうが、「己を知る」いまの私はそんな無茶はしない。その短いコースも、赤岳から阿弥陀岳に往復してから横岳に向かうという。本の写真を見ると、このコースもかなり急峻のようだ。こんな所に寄って大丈夫か…？ 1日目の登りの調子をみて、赤岳で皆さんの帰りを待つことにする可能性も考えておいた。

■本番：1日目：11時過ぎB班と別れ出発。

曇。1時間の林道歩きと2時間の緩やかな登りで行者小屋到着。仰ぎ見る尾根に目的地赤岳展望荘がはっきり見える。急勾配だ。出発。地図でみる等高線に直角の登り道は、ジグザグにはなっているが



険しい。あえぎあえぎ登るうち、足取りのあやしくなった人が数人。その次が私みたい。へばってしまっは元も子もないので、先頭リーダーのAさんにしばしばストップをお願いする。2時間弱でなんとか尾根に到着。すぐ山小屋、メデタシ。これでは、明日は阿弥陀岳は欠席だなーと思う。夜、雨の予報にも関わらず、窓から小海線方面の下界の明かりが見えた。

2日目：朝食後、5時過ぎから赤岳を目指す。霧で頂上も下界も見えない。体がまだ居眠りしているのかシンドイ。40分弱で頂上。メデタシ。この霧では阿弥陀岳に行っても何も見えまいということで、全員一致で展望荘まで戻ること。時間が余るし雨も少し降り始めたので、談話室でしばらく休憩。9時前出発。アップダウン、岩場、ハシゴもある尾根歩き。面白いコース。11時横岳で昼食。雨も降ったりやんだり下界の展望はナシ。岩場なのであまり高山植物は多くないが、コマクサが保護されて沢山ある。硫黄岳を過ぎて下りにかかり夏沢ヒュッテに2時20分到着。阿弥陀を省略したお蔭で、余裕たっぷりの尾根歩きだった。ここで長丁場を歩いてきたB班と合流の予定だったが、分班の一つの到着がかなり遅れた。当初事情も分からず大分心配したが、6時を過ぎてめでたく全員無事到着。本当にヨカッタ！



3日目：少し天候が持ち直し、歩いてきた山が見えてよかった。大石ゴロゴロの悪路を渋の湯へ無事下山。

■ヒヤリハット：B班の遅れについては、別途報告があると思うが、実は、似たような「事件」は山友会でも経験済みだ。2002年夏山。槍から燕までの長丁場で、最初から体調の悪い人が出て班が分裂。連絡もつかず待ったりして遅れに遅れ、日没の頃ようやく小屋に着いた。好天だったからよかったけど…。木曾駒では縦走に想定以上の時間がかかり、山小屋到着が遅くなってあわてた記憶がある。まだ他にも…。大津波の体験と同じで、経験していない人へ体験を語り継いでいくことは本当に難しい。今回の経験が、いい意味で引き継がれていくことを望む。参加者各個人については言えば、やはり、事前に、コースの難しさと自分の力量との関係を見極めることに、もっと努力すべきであろう。自分の力では少し難しいかと思える山に登れると、嬉しいし力もつく（以前、これを「背伸びの効用」と称して書いたことを山口さんが思いださせて下さった）。しかし、はるかに及ばない山に無理に挑戦すれば周りに迷惑をかけるだけだ。この判断が難しい。私自身、久しぶりの夏山を体験して、しみじみ感じた事でもある。「慣れた頃が怖い！」「初心忘るべからず！」 ついでに言えば、30周年記念誌と同様、20周年記念誌にはその前の10年間の山行記録がある（これも白波瀬さんの労作）。最近、新しいメンバーが増えて、以前に実施された山行が復活提案されるのをよく見かけるようになった。計画される前に、これらの表で以前の山行実施年月を調べ、そのときの「かんび」で山行報告や感想文をぜひ読んでみていただきたい。書籍とは違った大変参考になる記事が多いと思う。ぜひ利用していただきたい。



■やりました！：私個人とすれば、5年ぶりの夏山を無事登ることができて本当によかった。もうそろそろ引退かと思っていたけれど、植西さん、山口さんという大先輩の元気さを見せていただいて、もう少し私もがんばってみようと思うようになった。お二人のような「バケモノ」（尊称です！）には及びもつかないが…。山口リーダー、佐坂サブリーダーをはじめ計画に参画して下さった方々、3日間トップを歩いて下さった秋月さん、そして同行の皆さん方に心から感謝いたします。ありがとうございます。（地図の裏に「赤岳からの展望

図」が載っていた。勘定すると百名山の43座が見えるらしい。もう一度登らなくては！）

待望の八ヶ岳へ 数年来の夢果たす！！

遊佐 研治郎

なぜそんな気持ちになったのか正直言って定かではないのだが、数年前から八ヶ岳へ登ってみたいくなりチャンスが来るのを今か今かと待っていて、遂に今年の夏山集中登山で実現できることになり行く前から心が躍っていた。事前の訓練登山は六甲山と御在所岳に参加し、毎朝の自主トレもできるだけ欠かさないようにして本番に備えた。

天気予報は2,3日前までは全国的に快晴に恵まれ絶好の山歩きを堪能できるはずだったが、出発前日くらいから芳しくない予報に変わり、3日間の本番では快晴は少なく曇り、小雨、ガス等で八ヶ岳最高峰の赤岳(2899.2m)から見る眺めを楽しみにしていたがその期待は無残にも裏切られてしまった。赤岳から阿弥陀岳(2805m)へ登る予定もガスで視界がきかず断念せざるを得なくなった。



横岳から硫黄岳に向かう途中でピンクの可憐な花の「コマクサ」が群生していたのに感激しカメラのシャッターを何回も押したのはいうまでもない。あれだけの広範囲で咲いていたコマクサを見たのは初めてだった。最盛期から時期がはずれかかっていて少し枯れはじめている花もあったが、ほとんどは十分な美しさを保っていたのは嬉しかった。人間からかまたは鹿をはじめとする動物から守るために保護柵やネットが張られていたが、いつまでも美しい花を咲き続けてくれることを願った。

最終日の3日目の早朝「ヒュッテ夏沢」から東天狗岳へ向かうときによりやく晴れ渡り遠くに赤岳、阿弥陀岳の威容を、さらにその奥に南アルプスの山々を見ることができた。しかし期待していた富士山は3日間を通してとうとう見ることはできなかったのは返す返すも残念だった。

2泊した山小屋の食事が朝夕ともバイキングだったのに軽い驚きを感じた。いささかオーバーに言えば都会のホテルの食文化がとうとう山小屋にもきたかという思いがした。私はバイキングが好きなものでこれからどんどん広がってくれればいいなあと思った。

最後に苦言らしきことになるのをお許しいただきたいのだが、誰かが山小屋での雑談中に「今回の訓練トレは本番には役に立たなかった」と言う人がいてビックリした。どのような意味で言ったのかはわからないが、私が思う訓練トレは事前に自分の弱点や欠けていることを自覚して、本番までに自主トレで強化することに意味があると思うのだが諸兄弟の考えはいかがであろうか。



6:15 赤岳山頂にて

山行報告

Bコース参加者が16名となり、各参加者の脚力等を考え2班体制とした。

8月4日

美濃戸口に向かうAコース班を乗せたバスを見送り富士見高原ゴルフ場で下車。

富士見高原駐車場で食事、準備体操の後ゴルフ練習場の階段を上がり登山口に入る。道標を確認し「盃流し」へのルートを進ると白樺の木が点在している。洞窟のような岩の前に網笠山（表示は網笠岳方向を示す道標が確認できた。やがてザレ始めた。林を抜けると蓼科山を彷彿とさせる巨石の群れが待っていた。網笠山の山頂は近い。慎重に足場を確かめ山頂到着。山頂からは明日登る権現岳も確認出来た。網笠山山頂にある道標で青年小屋へのルートを確認しゴロ石に注意しながら下りの開始。眼下に青年小屋を見えてきた。

青年小屋到着後は先行班との合流で楽しい夕食が待っていた。



夕食後の談話室には、ボード壁にクライミングの設備もあり、数人がチャレンジしたり、暫らくの歓談後、就寝。

8月5日

4時30分、先行班出発の後、後続班も同時刻に小屋を出発した。のろし場で朝食を摂り、降り始めた雨の為に雨具を装着した。ガレた上りのルートだ。徐々に厳しい登りとなり権現岳山頂を目指す。

(先行班のコースタイム記録を後日入手し分かったことだが、権現小屋までの所要時間が既に50分の差が出来ていた。矢張り後続班の脚力とは相当の差があった。)

ガレ場のギボシ、権現岳を3点確保で登りきり権現小屋を通過すると次に待っていたのはあの61段のゲンジー梯子だが 皆後ろ向きになり慎重に着地した。いよいよキレット小屋から赤岳への標高差およそ400m、ルンゼ状の岩場登りの核心部が待っていた。

ルンゼの乗り切り、最後の難所をどうにか征服すると赤岳頂上は少しの距離でした。 11時55分山頂到着。 天候が悪く視界ゼロは残念でした。

赤岳展望荘では先行組が私達を1時間超待っていてくれた事を残されたメモで知りました。

気持ちも焦り始め、この展望荘では10分の休憩後に出発しました。

ガスったガレ場を下り三又峰を通り、無事に硫黄岳に着きましたが 正直な処この間はガスの性もあり



ますが、どんなルートだったかはっきりとは覚えておりません。 唯々気にしていたのは夏沢ヒュッテの到着時刻でした。 この調子では6時頃になりそうだ。 ヘッドランプを使うかどうかのぎりぎりの時刻だろう。 とそんなことばかりが頭の中を駆け巡っていました。

硫黄岳着16時10分。 残りは下りの約40分。 ヒュッテ到着は5時前である事が確信できた。 そこで先行組が心配していると思ひ伝令を出し、到着予定を連絡してもらおうと脚力のある1名はルート経験者である2名を選抜



し一足先に行ってもら指示を出した。 ところがこの2人がルートを間違えオーレン小屋のあるルートを辿ったらしいとの情報が入った。 「しまった」と思ったが後の祭りである。 気が付いて引き返してくるか、それともオーレン小屋で気が付き夏沢ヒュッテに向かってくれるか分からない。 少し皆で待ってみたが、引き返す様子はないが 私だけがその場所に残り、他の班員には夏沢ヒュッテに向かってもらうことにした。 そこで初めて携帯電話をポシェットから取り出した。 今から思うと何故伝令を出さずに携帯電話で連絡しなかったのか分かりません。 5時過ぎ、携帯がなり「暗くなるから、降りてくるように」との指示があり一人で夏沢ヒュッテへ向かって下り始めました。 下の方から「オーイ」という声が何度か耳に入り、その声に答えました。 やがて迎えに来てくれた植西さんと合流。 その後もザレ場を駆け下ると 次に中島さんが迎えに来てくれていました。 「二人は小屋に着いた」と聞かされた時の安堵感はなんと表現すればよいか分かりません。 どうにか夏沢ヒュッテに到着し皆に合流。

8月6日

天候もどうにか持ち直し視界もひろくなった。 先行組の出発の5分後に後続班も出発。 箕冠山を下りきったところで一人の腹の調子が思わしくなく、正面に根石岳もクッキリと見えているので一人に残り、腹調の回復を待ちました。 回復後は、かなりの速さで頂上へ向かい頂上で待っていてい

た皆に合流。

東天狗には遅れはしたものの、順調につきました。ここで誰いうとなく「空身で西天狗の往復をしよう」。2人が東天狗で荷物番をし、希望者は急ぎ足で下り西天狗の頂上に立ち帰ってきました。（これも当然のことながら後で叱責されました。その理由は当初のルート外だからです。）



回復しかけた天候も又涙雨なのか……。又、降り始めました。雨具を装着し岩場の下山です。8時20分頃 一人が岩に足を取られたのか 転倒。唇と頬から出血しており水で洗い流し傷テープで応急措置をし持っていた荷物の一部を2～3人の仲間と分担しました。雨の中、黒百合ヒュッテ到着は9時15分。

黒百合ヒュッテを後には鉄や木の橋もたびたびあり、苔むした岩も素晴らしいが 安心は出来ません。岩が更にごつごつとしてくるとやがてパノラマコースとの分岐点に着きました。分岐点

では中廣さんが携帯してくれたGPSで進行方向を確認し、残り距離を聞き徐々に解放感を感じ始めました。

12時00分：下山口の橋を渡り終え、「お疲れさん!!!」と労いのハイタッチで山は終わりました。入浴で汗や汚れを落とし、全員と合流 そして京田辺へ。。。。。

色々あった夏山山行でしたが、どうにか終わりました。皆さん 有難うございました。



ヒヤリハット：班バラケ(?) 転倒(少しの出血)

一口感想

八ヶ岳山行の上級コースは人数が多いので2班に分かれ富士見高原から出発しました。私達9名は後ろの班で1日目は天候に恵まれルンルン気分で編笠山に登り、そこを少し下ると乙女平があり、そこに青年小屋が有りました。小屋から5～6分位の所には「乙女の水」が有り、青年小屋、乙女の水など若い人にピッタリの名前でしたが、我々65才以上の高齢者も気持ちは若者です。翌日から登った赤岳方面へのコースも何十年ぶりかの為、楽しみのコースでワクワクして登り楽しい山行でした。御同行の皆様有難うございました。(吉野 美智代)

二日目の縦走は疲れましたが面白いコースでした。やはり、縦走は良いですね！（小川 弘二）

天気に恵まれなかったことが非常に残念。権現岳から横岳までの間、岩場の連続に緊張に緊張。梯子・鎖があるとホットする。私にとってこのような厳しい縦走は初めてであり、改めて縦走の面白さを感じています。他グループからも青年小屋からヒュッテ夏沢のコースは厳しいと評され、今改めて自身が湧いてきました。(広瀬 秀憲)

権現岳からの長い長い梯子の下り、ガスで下が全然見えず「いつまで続くの？」こんなに長い梯子は初めてでした。雨に遭いましたが全員無事下山できてよかった。(徳田 幸子)

八ッ岳全山縦走は未だ歩いていなかったのに参加させてもらったのですが、天気が悪く、楽しみが半分になってしまい残念だった。しかし思っていたよりも厳しくて後日に予定している穂高縦走の良いトレーニングになった。
(中島 貞夫)



二日目ヒュッテ夏沢到着を前にしてのドタバタは(こんな表現、不適切ですかね。でもみんな無事で・・・)ありましたが、又天候も今ひとつでしたが、岩稜帯の急登・急降下あり、ガレ場ありコマクサの群落あり、の厳しくも思い出に残る山行だったと思ってます。日本のアルプスの夏山を満喫しました。ただ年々歳を重ね少々疲れが残る感じなのは私としてはちょっと残念です。お世話頂いた皆さん、有難う御座いました。
(中廣 正典)

妻に感謝の宿泊山行

田辺山友会に入会后、宿泊山行に初めて参加いたしました。妻に感謝の山行でした。惜しむらくは天気が良かったら？ 同行班のCL 植西さん、他皆様ありがとうございました。
(赤松 隆二)

今回は二つの基本的なミスを犯した。一つは重すぎるザック。一眼レフは明らかに無理があった。もう一つはストックの調整不足。荷重をかけるとゆるゆると縮んでしまった。
(梅澤 宗平)



今回の夏山集中登山は企画、行程とも最高でした、個人的には本当にしんどかったです、2日目の赤岳展望荘で後続組を待つ間ついうたた寝をしてしまい、体が冷えたのかその後暫くして両足の付け根に激痛が走り動けなくなってしまいました、こんな事は初めての経験でしたが赤松さんにシップ薬を貼ってもらい納まりました、日頃の訓練不足と加齢を痛感させられました、60段の鉄梯子のこわさ、連続する岩登り降り面白かったです(後日談です、その時は辛かった)、最後天狗岳からの雨の中での石道は神経使いましたが無事下山した時は正直ホットしました、2日目はガスが多く眺望が全く聞かず残念でしたが、2～3年後に再度企画して挑戦しようかな？植西さん、中島さんお疲れ様でした。
(園上 雅晴)



順調だった先行班 東天狗岳山頂にて

今回の夏山登山は、一般コースのAグループとハードコースのBグループに分けて行われた。私は、Bグループでそのグループを2班に分けて行動しましたが、今回感じた問題として、班毎の連絡手段です。無線機の持ち合わせなく携帯電話は通じず、お互い相手の安否が心配になりました。
(植西 晃干)

2013 年度 夏山集中登山 八ガ岳を終えて

夏山担当 山口 博

夏山担当と成り、山域は年間計画で八ガ岳と決まって早速計画には入りました。当初は初級、中級、上級の3コースを計画して5月12日に説明会を実施致しました。初級コースの参加者が少なく、2コースで参加者は33名と成りました。

昨年の夏山の反省から従来 of 山行部で立案して、それぞれのコースの参加者で CL,SL を決めて行く方式から、今年は山行部が中心と成って山行する事にしました。

トレーニングも4回計画して各自の体力を確かめて貰う為に、厳しいコースを設定しました。1回目は比良山の縦走の長時間歩行で体力を測って貰う、2回目は六甲縦走で岩場の登と長時間歩行でしたが、暑さでバテ気味の人がでて、CL の判断で宝塚までの縦走を諦めて有馬に下山、3回目は八経ガ岳でしたが雨で予定より遅れ、下山の時間を考えて弥山で下山、4回目は御在所岳で中道から国見尾根縦走と岩場の登りと荒れた下山道で本番に向けての良いトレーニングと成りました。夏山の参加者には最低2回の参加を義務付けました。

夏山集中登山本番にはAコース15名Bコース16名の参加が有り大型バスで出発しました。富士見高原でBコースを降ろして、美濃戸口にはAコースが降りました。

今回Aコースは何等問題なく全員予定の時間で行動が出来ましたが、Bコースは班分けし別行動した為にトラブルが発生しました。(班分けしても絶えず連絡の付く範囲で)又自分の体力が把握出来ていなくてこのコースは無理であったのでは? B班は大きく遅れが生じた時は携帯電話で連絡すべきであった。(電源がオフ等で不通であった)

★ 今回の山行で感じた事(リーダーの決断が大事)

以前に「学ぼうよ」で山行参加の判断基準について

初心者でも経験者であっても登りたい山や登山のルートが自分の力量に見合うかは大いに迷うところだと思います。その時は経験者に聞いたりしますが、魅力的な山はつい自分に甘く成りがちです。参加者が無理をしていると判断した時は CL SL 担当者は安全登山の為には参加を断る事も必要です。(今回の参加者に問題が無かったか?)

「背伸び」の効用について

以前[[かなび]]で倉光さんが登山は自分自身と競争するスポーツだと言っています。

「背伸び」により高い山にも登れ、

歳をとっても今まで通りに行動出来た、これが喜びであり、登山の魅力だと言っています。その通りで人は絶えず背伸びして行動することで成長し、成人してからは体力の低下する事を防いでいます。問題は何処まで「背伸び」しているかを自分で判断出来るかです。「背伸び」する為には自分に如何に厳しく出来るかが大事だと思います。

山行に参加するには、過信で無く自信を持って参加出来る為に日頃の生活行動が重要に成ってきます。体力を維持するには常日頃のトレーニングが必要です。「背伸び」が背伸びで無くなれば余裕を持って登山が出来て山の楽しみも増してきます。

トレーニング登山は飽くまで自分の体力が他者と比べてどの程度か知る為の手段です。

トレーニングに参加したから大丈夫とは言えませんし、自分が全体から見てどの程度のレベルか判断して山行に迷惑を掛けないか、参加の可否を判断すべきです

今回の夏山登山はお天気に恵まれませんでしたでしたが、無事に終了しました。

CL、SL、参加者の皆様ご協力有り難う御座いました。

